

月刊

2018

11  
月号

# みんぱく

特集

## 動物倫理 動物福祉と

問われる人間と動物の関係 岸上伸啓／捕鯨と動物福祉 石川創

動物園・水族館における動物福祉 佐藤哲也／環境保護・自然保護と動物愛護 佐久間淳子

# 「いただきます」の倫理

伊勢田 哲治

プロフィール  
1968年福岡県生まれ。哲学者。科学哲学、倫理学専門。アメリカのメリランド大学にて博士号取得。名古屋大学准教授を経て、現在、京都大学文学部研究科准教授。『疑似科学』と科学の哲学、『動物からの倫理学入門』（ともに名古屋大学出版会）、倫理学的に考える（勤草書房）など著書多数。

日本における動物倫理、とりわけ食用に供される動物への扱いを考えると、近年無視できない影響力を持つのが、『いただきます』の倫理」とでも呼ぶべきものである。これは大筋以下のような考え方である。(一) 人間は動植物を犠牲にする（命をいただく）ことによつてしか生きられない。(二) その犠牲に対して人間はせめて感謝するべきである。(三) 食前の「いただきます」の挨拶はその感謝の気持ちを込めた「命をいただきます」という意味である。(四) この感謝の念の帰結として、食材を無駄にしたり食べ残しをしたりすることは許されない。

調べてみると、この考え方は、二〇〇〇年ごろから、小学生にアイガモ等を育てさせて最終的に殺して食べさせる、というような授業実践とセットで学校教育のなかで広まり、さまざまなメディアを通して一般にも知られるようになっていったようである。特に、二〇〇五年に食育基本法が制定され、「自然の恩恵」に対する「感謝の念や理解」を深めることが法的に要請されるようになったことはこうした授業実践が広がる上で追い風になった。さて、日本的な動物倫理としてこれだけポピュ

ラーになっている『いただきます』の倫理』だが、わたしのように西洋の倫理学の観点から動物倫理を研究してきた人間にとっては不可解な点が多い。西洋流の倫理学において、相手への配慮の基礎となるのは、相手が苦しむか、あるいは幸せになるか、といった相手の経験であり、動物もまた苦しんだり幸せになったりする存在だからこそ配慮の対象となる。この観点からすれば、肉も米も区別せず「感謝」の対象となるのは意味がよくわからないし、一方的に命をうばつておいて感謝するというのはそもそも「感謝」という言葉の意味からいっておかしい。さらに、死後に感謝されようが食べ残しをされようが、死んだ動物にとっては何の違いもないから、そんなものは倫理的配慮にはならない。こうした出所のはつきりしない考え方がわずか十数年で現在のように流布していることを考えると、『いただきます』の倫理』は日本人の根深い動物倫理観と結びついていると思われるし、動物飼養、動物慰霊といった日本特有の儀式的ロジックともリンクしているであろう。その倫理観がなぜ西洋倫理学からは不可解なのかを考えると、西洋と日本の相互の文化理解の手がかりとなるだろう。

月刊  
**みんな**

11月号目次

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 エッセイ 千字文<br/>「いただきます」の倫理<br/>伊勢田 哲治</p> <p>2 問われる人間と動物の関係<br/>岸上 伸啓</p> <p>4 捕鯨と動物福祉<br/>石川 創</p> <p>6 動物園・水族館における動物福祉<br/>佐藤 哲也</p> <p>8 環境保護・自然保護と動物愛護<br/>佐久間 淳子</p> <p>10 ○○してみました世界のフィールド<br/>からくり人形のふるさとを訪ねて<br/>——27年ぶりの出会いと再会<br/>荒川 史康</p> | <p>12 みんなく Information</p> <p>14 想像界の生物相<br/>メキシコ仮面に見るクリーチャーたち (1)<br/>——旧コードリー・コレクションより<br/>アンソニー・シェルトン</p> <p>16 新世紀ミュージアム<br/>台東区立下町風俗資料館<br/>丸川 雄三</p> <p>18 シネ倶楽部 M<br/>寿司屋で振り返る日本文化<br/>——「イーストサイド寿司」<br/>鈴木 紀</p> <p>20 ながなんちゃ<br/>ビジュアルが勝負? ペルーの政党名<br/>八木 百合子</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|--|--|

# 動物福祉と動物倫理

## 問われる人間と動物の関係

岸上 伸啓

人間文化研究機構理事・民博学術資源研究開発センター

わたしたちの周りは多種多様な動物で満ち溢れている。少し例を挙げるだけでも、食料源となるウシやブタ、ペットのイヌやネコ、動物園のキリン、ゴミをあさるカラスなどがある。人間にとって益獣もいれば害獣もいる。わたしたちは、これらの動物とどのような関係を取り結び、接するべきであろうか。人間と動物の関係は、時代や地域によってその内容は変化し、多様性が見られるが、近年、動物との関係を考えるうえで、動物福祉と動物倫理という考え方が注目されている。

### 欧米社会における動物愛護と動物福祉

キリスト教を信仰する社会では、神が人間を、

畜産、動物園、実験動物、ペット……人間が生きるうえで動物は欠かせない。彼らとの関係をどう築いていくべきか。動物をめぐるさまざまな意見が交錯するなかで、人と動物のかかわり方をあらためて考えたい。

動物を支配する存在として創り出したので、動物を利用することは人間の手にゆだねられていると考えられてきた。しかし、一八二〇年代のイギリスにおいて使役用牛馬などへの虐待が社会問題となり、一種の動物愛護運動が起こり、人間と動物の関係について考え直すようになった。それは、一時下火になったものの、第二次世界大戦後になると再び脚光を浴びるようになった。そのひとつが、動物福祉の考え方である。

動物福祉は、動物園・水族館で展示のために飼育されている動物や食用に生産される家畜動物、研究実験用の動物、ペットや、害獣を含む野生動物など人間が利用したり、接したりしてい



ホエール・ウォッチング(カナダ・バンクーバー島周辺、2017年)

利益を擁護する一方で、他の種の利益を否定する偏見と態度を「種差別」とよび、人間による種差別をなくすことを訴えた。この考え方は、一部の動物愛護団体の思想的な支柱となり、動物は誰かの所有物ではなく、人間と対等な権利をもつ生物であるので、人間から搾取されることや残酷な取り扱いを受けることなく、それぞれの本性に従って生きる権利があるという主張として展開されている。

動物の権利を支持する人びとは、畜産や動物実験、狩猟など動物を苦しめるような行為を全面的に廃止すべきだと主張する。彼らは、捕鯨は言うに及ばず、水族館・動物園での飼育展示についてまで反対する傾向が強い。現時点では、ホエール・ウォッチングのような自然環境のなかでの非捕殺的な利用については強く反対していないが、多くの生物学者がクジラへの悪影響を指摘しはじめている。

### 時代とともに変わる倫理観

動物との関係のあり方について研究する倫理学者は、楽しみのためのスポーツハンティングには反対したが、イヌイットら先住民による生活のための狩猟については容認する立場をとってきた。しかし、社会や文化、経済が変化してきたという事実に基づき、その立場に疑問符を投げかける研究者も出てきている。例えば、哲学者のスー・ドナルド



クジラを探すアラスカ先住民(アラスカ州バロー村、2010年)

ソンとウィル・キムリックは、先住民の権利を認めることや先住民文化を尊重することは、狩猟による動物の権利を侵害する行為を承認することにはならないので、関係者間で慎重な協議が必要であると主張している。

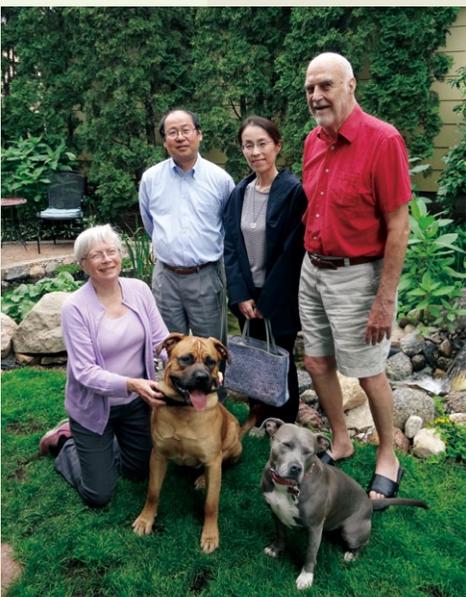
人間は動物の権利を重視し、原則として利用すべきではないという主張は、現在の世界各地の人間の生活状況を考えるときわめて実行が難しい倫理観である。しかしながら、このような考え方の出現は人間と動物の関係性の変化を暗示している。

人間と動物の関係はどのようなべきなのか。この問いには正解が存在しないが、今回の特集では、動物福祉や動物の権利との関わりから「捕鯨」や「水族館・動物園」、「環境保護」の事例を紹介することによって、その関係について考えてみたい。

### 動物の権利

動物に対して、不必要な苦痛を与えないように配慮すべきだという倫理観である。この考えに則り、多くの国で動物の保護法が施行されている。

動物の利用を前提とする動物福祉とは異なる倫理観に、「動物の権利」の考えがある。この考え方が社会に広まった発端のひとつは、オーストラリアの哲学者ピーター・シンガーが『動物の解放』(一九七五)のなかで、家畜動物や実験用動物に対するむごい扱いを取り上げ、人間の便宜のために動物を搾取することに異議申し立てをおこなったことである。彼は、自分自身が属する種の



カナダ人の友人が家族の一員として飼っているペット犬。左から2番目が筆者(撮影: Singe Bone、カナダ・サスカトーン、2016年)

# 捕鯨と動物福祉

石川 創 いしかわ せい  
下関海洋科学アカデミー鯨類研究室長

## 鯨の「人道的捕殺」

捕鯨は海の野生動物である鯨を捕殺する狩猟行為である。人間は少なくとも五〇〇〇年以上のむかしから現在に至るまで、食料あるいは鯨油に代表される工業資源として鯨を利用するために捕鯨をおこなってきた。

家畜に対する公的な動物福祉への取り組みは、一九六五年にイギリス議会が定めた「五つの自由」が有名だが、捕鯨における動物福祉（これをしば



ミンククジラを狙うノルウェー捕鯨船の砲手。ミンククジラはノルウェーとアイスランドの商業捕鯨、グリーンランドの先住民生存捕鯨、日本の調査捕鯨で捕獲対象となっている(2015年)

しば人道的捕殺と称する)への取り組みはそれよりも早く、国際捕鯨委員会(IWC)により一九五九年から始まった。IWCでは、当時用いられていた黒色火薬を使った爆発銃に替わるあらたな捕殺手段として、薬物、炭酸ガス、電気銃の三つの方法を検討したが、最終的にはすでに改良が重ねられてきた爆発銃が、もっとも人道的な捕殺手段であるとの結論となった。

当時の議論で重要な点は、鯨の人道的捕殺の目的と人道性の定義について初めて言及したことである。一九六〇年の報告は、「第一の基準は捕殺の早さであり、人道性を証明するよい方法は他に存在しない」と述べ、致死時間(銃が命中してから鯨が死ぬまでの時間)の短縮が人道的捕殺の目標であることが示されている。

## すれ違う議論

IWCによる人道的捕殺への取り組みは一九七五年に再開されたが、すでにこの時期には加盟国に捕鯨反対国が増加するなか、議論の内容は次第に鯨の人道的な捕殺手段を検討することよりも、捕鯨が非人道的であると批判することに多くの時間が費やされるようになった。反捕鯨国側からは、捕鯨に用いられる漁具や捕殺手

## 捕鯨国の取り組み

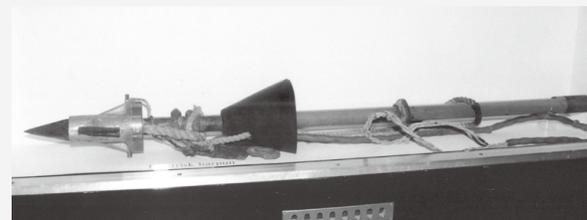
日本は、一九九二年に開催されたIWCワークショップで採択されたアクションプランに基づき、調査捕鯨における捕殺技術改善に取り組んだ。詳細なデータ収集と分析により射撃方法や漁具の改良を図った結果、近年では開始当初に比べ平均致死時間は約三分の一に短縮され、即死率は約二倍にまで向上した。また同じ捕鯨国であるノルウェーも早くから同様の技術改善に取り組み、新型爆発銃の開発などで即死率においては日本を上回る結

段が他国より劣っている(とみなされた)

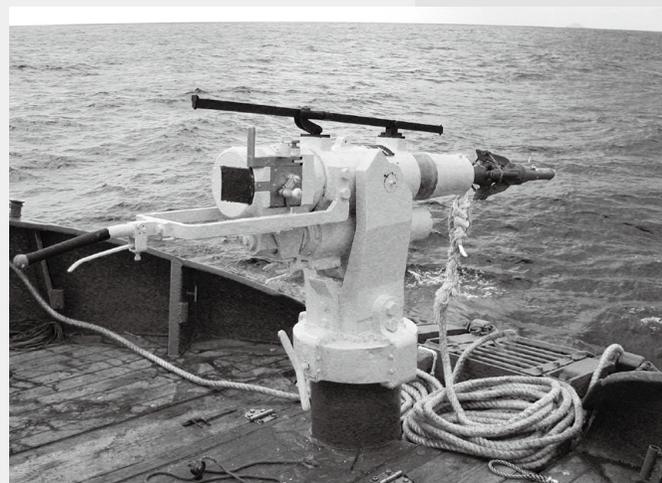
国に批判が集中し、その問題が改善されると、今度は別の国や手法に矛先が向けられることが繰り返された。その対象は近代的漁具を使わない先住民生存捕鯨も例外ではなかった。

共通の目標を達成するために、解決すべき問題を設定する。その問題が解決すればさらなる改善を図り、目標に近づく努力をする。これは組織として極めて正しいアプローチだ。

IWCにおける動物福祉＝人道的捕殺の歴史は、あらずじだけ見るとあたかも正しく機能しているかのように見えるが、現実には異なる。なぜならば少なくともIWCでは、商業捕鯨の一時停止を決議した一九八二年以降、反捕鯨国側の「目標」は、捕鯨の人道性の向上ではなく、捕鯨の全面禁止であり、もはや捕鯨国とは目標が異なっ



1950年代から実用化されたノルウェー製の電気銃。断線や漏電等の問題点が克服できず、最終的に爆発銃がもっとも優れているとの結論が出された(1999年)



日本で現在用いられている捕鯨砲。日本の爆発銃との比較実験のため、ノルウェー製の新型爆発銃先が装着されている(2000年)

果を出している。

一方で日本は、IWCで繰り返される非建設的な議論に決別する方針をとり、二〇〇六年以降は動物福祉に関する議論の場を、捕鯨やアザラシ猟をおこなう国で構成されるNAMMCO(北大西洋海洋産哺乳動物委員会)狩猟委員会に移した。冒頭にも述べたように、鯨は家畜でも実験動物でもなく野生の動物であり、捕鯨は狩猟行為である。捕鯨を含む狩猟において、動物福祉を実践する第一の目標は致死時間の短縮であり、日本およびNAMMCO加盟国は、この目標に対し現在も真剣に対応している。

## 捕獲鯨類検死記録

JARPA

処理番号: [ ] 日付: [ ] 尾羽番号: V-1 記録者: (印)

体内爆発 (有) 無不明 ( ) ランス使用時間: [ ] 損傷の評価 (銃/銃) 2番銃 (有) 致死時間: 2:10 銃: 肺損傷 → 致命傷 銃: 脳損傷 → 致命傷 ライフル (有) 無 ( ) × 1

銃傷記録 I: In O: Out

[ 体腔の損傷 ] 胸腔 C: 出血多, 冠木是 腹腔 A

[ 骨格の損傷 ] A: 正常 B: 軽度損傷 C: 完全損傷 D: 不明

頭蓋骨	下顎骨	頸椎	胸椎	腰椎	尾椎	肋骨	胸骨	その他
A	A	A	B	B	A	B	A	A

銃 A 銃 C 10-11 肋骨間の射 1-3 肋骨間 L6-8 R10

[ 内臓の損傷 ] A: 正常 B: 軽度損傷 C: 完全損傷 D: 不明

舌	咽頭	喉頭	肺	心臓	横隔膜	肝臓	胃	腸管
C	A	A	C	A	A	A	A	A

流果

腎臓	子宮	生殖腺	膀胱	その他
A	A	A	銃 C	銃 C

筋組織の損傷

[ 特記事項 ] 銃が胸隔・肺を損傷した後 骨が破損

日本の調査捕鯨で用いられた検死記録の一例。日本は調査捕鯨で捕獲した全個体の詳細な捕獲データと検死結果を分析して致死時間短縮に成功した(2000年)

# 動物園・水族館における動物福祉

佐藤 哲也 神戸どうぶつ王国園長

生物を展示することによって動物たちの素晴らしさ、命の大切さを伝える動物園・水族館の業務はレクリエーション・種の保存・教育・研究・普及啓発など多岐にわたっており、最近では域外保全・生物多様性関連業務も加わり、年々責務は増大している。

一方、直面する諸問題も年々増え、批判もいただくところではあるが、動物福祉上の意見も少ない。

## 福祉戦略

動物園・水族館は、飼育動物の効果的な管理のための国内個体群管理、国際連携、累代繁殖(健全な繁殖を繰り返して種を維持すること)、配偶子保存(死体からの配偶子回収及び採精等による配偶子回収と回収した配偶子の冷凍保存)他、ツシヤマネコ、ニホンライチョウ等多くの固有種の生息域外保全にも取り組み成果を上げてきたが、それは種の保存、生物多様性保全が主目的であり、動物福祉とは距離があることは否めなかった。もちろん我々はこうした現状を看過しているわけではなく、動物福祉を重要な戦略ととらえている。

公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)は世界動物園水族館協会(WAZA)の動物福祉戦略に参画し、WAZA『野生生物への配慮 世界動物園水族館動物福祉戦略』の日本語版を加盟施設に配布するとともに、WAZA動物福祉戦略認定制度サミットへの参加や動物福祉評価チェックリストを使った評価手法によるトレーニングを会員園館長向けに実施するなど福祉の向上に努めている。

また、飼育動物の適正施設ガイドラインの策定も開始しており、展示場面積や高さ、池、植栽、温度管理、水温管理など、対象種が飼育下でも

## ハズバンドリートレーニング

飼育動物の健康管理には定期的、突発的な治療や健康診断が不可欠であるが、野生動物という特性上簡単に実施することができず、これまでは麻酔薬導入による化学的不動下、保定による物理的不動下が主流であった。

これらの手法は現在でも状況によって必須技術であるが、対象動物に苦痛を与えたり、ときには事故に至ることもあって、より安全で動物に負担を与えない手法の開発が求められた。

応用行動分析トレーニングを利用してのハズバンドリートレーニングは、動物自らが受診動作を形成するトレーニングで受診動作形成手法ともいうが、安全で負担の少ない手法であり、福祉にも配慮している。この手法は近年飛躍的に進歩しており、導入している施設も増えて体温測定や採血、口腔内検査、ボディーチェック、エコー、レントゲンなどに利用されている。

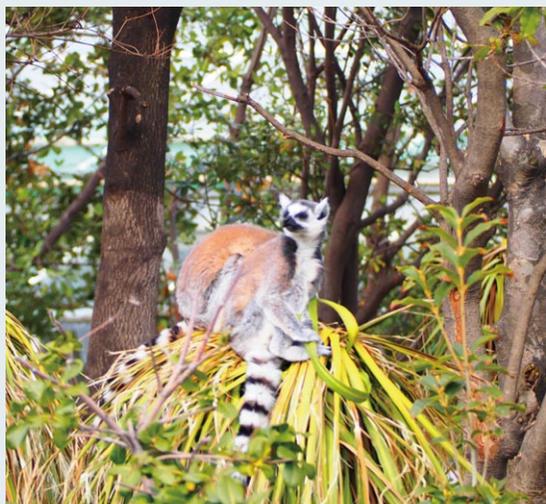
副産物としては環境エンリッチメントとしての



ハズバンドリートレーニングによって、レッサーパンダに検温している様子(2011年)



ハズバンドリートレーニングによって、オットセイに点眼している様子(2012年)



樹上のワオキツネザル(2015年)

野生下での行動をなるべく再現できる施設作りに寄与すべく準備を進めている。

こうした活動は欧米のみならずアジア各国の地域協会でもおこなわれ、動物福祉に関する考え方は文化の違いこそあれ確実に浸透していると思われる。

動物福祉戦略は海外との連携も重要で、先進地域からの講師招請やアジア地域の地域協会との動物福祉に関する連携会議も予定されている。



環境エンリッチメントのために設置された擬木(ぎぼく)で樹上生活をするビントロングの親子(2018年)

利用や、入退舎など一般管理にも効果があり、今後ますます発展していくであろう。

以上のように動物福祉は動物園・水族館にとって重要な戦略として、単に批判に対応するものではなく飼育動物の幸福に資するものであり、種の保存や生物多様性保全にも直接的、間接的にかかわることから真摯に取り組まなければならない。

自然からの大切な預かりものである動物たちが未来永劫健全に飼育されるために動物福祉はさらに発展する必要がある。

## 環境エンリッチメント

動物福祉の考え方は、実際に動物に接する現場にも広がってきており、その一つの指針として「環境エンリッチメント」がある。

環境エンリッチメントとは、飼育動物の問題行動の解決と幸福な生活を目指した飼育環境のハード、ソフト両面の創意工夫である。これに基づいた環境改善は、動物の精神安定や自然行動の生起・行動レパートリーを増やして動物の福祉に貢献するものである。また、福祉のみならず、繁殖の向上や動物の健康にも好影響があり、かつ入園者にとっても健全な動物の姿は魅力的で教育効果が高い。



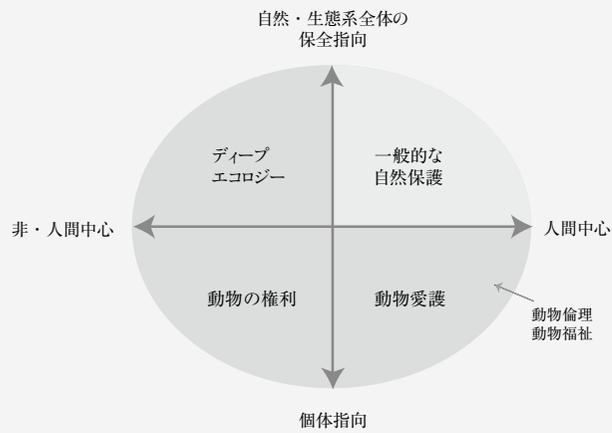
応用行動分析トレーニングにより自由飛翔するヒメコンドル(2013年)

# 環境保護・自然保護と動物愛護

個体寄りか、生態系寄りか

環境問題の取材を続けるなかで、自然保護運動の動向にも注目しているが、野生生物保護が含まれるにもかかわらず、動物倫理と動物福祉という考え方はほとんど登場しない。なぜならば、こ

動物保護における考え方、立ち位置の違い



日経ウーマンオンライン「イルカ問題、言い分を図にまとめました」(川端裕人、2010年)より改変

れらはおもには飼育下にある動物や、狩猟などによつてヒトが手中に収めようとする個体に対する接し方を念頭に置いているからだ。自然保護運動では、「生息地を開発させない」「繁殖の妨げになる人為的要素をとり除く」というように、個体ではなくまとまりでとらえ、彼らの生態に合わせて人間がいかに接しないかが重要になる。

動物倫理と動物福祉を重視するとしたら動物愛護の領分だろう。動物の個体寄りに軸足を置くか、生態系のバランスに軸足を置くかで、見え方、かわり方は大きく違ってくる。まずはその違いを念頭に置いていただきたい。

## 「〇〇を守れ」が目指すもの

日本では高度経済成長期以来、開発優先の気運が非常に高く、自然豊かな野山がどんどん切り崩されてきた。これ以上自然を壊すなと立ち上がる時、保護派はそこに生息する希少種や名の知れた大型鳥獣の名を掲げて、「〇〇を守れ」「〇〇がいる森を守れ」と訴えることがよくある。それはその知名度の高い生物に代表させ、ともに生息する無名の、あるいはありふれた虫けらたちを含めた生態系も、その結果としてあらわれる景観も守りたいのだ。

う、配慮がなされている。自然保護派はこれを「やむなし」と受け入れる傾向にあるが、動物福祉にかなっても、動物愛護派には受け入れがたいようだ。特に、ペットとして親しまれている生物種については、より強い拒否反応があるように思う。その筆頭が、ネコである。

## ノネコという「緊急対策外来種」

鳥嶼部では今、野生化したネコ(ノネコ)が深刻な問題になっている。太古に大陸から切り離された結果として、離島には独自の進化を遂げた固有種や、貴重な繁殖地として海鳥が生息して



ノネコ(野生化したネコ)に襲われて運ばれるアマミノクロウサギ(提供:環境省奄美野生生物保護センター、2008年6月撮影)

佐久間 淳子 フリージャーナリスト



ゴルフ場開発の差し止めを求めた奄美「自然の権利」訴訟の原告団による横断幕。固有種や特別天然記念物でさえ守れない日本の現状を訴え、10種以上の野生生物が描き込まれている(2001年1月)

このスローガンの下では、〇〇を愛して止まないヒトも、動植物全般が好きなヒトも、風景が好きなどヒトも賛同しやすい。だが、そんな都合の良い生物が、どこにでもいるわけではないし、副作用として「貴重な種がいなければ開発は許さ

いるのだが、ヒトがもち込んだネコが野生化し、彼らを捕食しているのだ。放置すれば種の存続さえ危うい。固有種や海鳥の研究者からは悲鳴のような報告が各地からなされている。

しかし、奄美大島でのノネコ駆除が計画されたことに対して動物愛護団体が殺処分反対のネット署名を呼びかけたところ、五万筆強が集まった。特定外来種ではないから、飼うのはかまわない。ところが、署名者のなかでノネコを引きとる(飼う)意思表示をしたヒトは数名にとどまったという。問題解決に向けた動きにつながっていないのである。そんななかで希望といえるのは、愛猫家に室内飼育・終生飼育を徹底し捨てないよう啓発し、飼い主を斡旋する地元NPOが地道に活動し、譲渡希望者が当初よりも増えていることだ。動物倫理、動物福祉は、このノネコ問題に何か解決の糸口をもたらすだろうか。期待を込めて、読者の皆さんにもお考えいただきたい。



徳之島、天城町の当部林道で撮影されたケナガネズミをくわえるノネコ(提供:森林総合研究所、2018年)

れる」と解釈されることもある。一九九三年に生物多様性条約が発効したころから、ありふれた生き物も含めた生息地一帯の価値をあらわすキーワードとしての「里山」が用いられるようになり、種の保存法(一九九三)や、鳥獣保護法の改正(二〇〇二)、さらに生物多様性基本法(二〇〇八)など、国内法も整えられてきた。

## 特定外来種の駆除

一方、「排除の法律」もできた。外来生物法(二〇〇四)だ。外来生物とは、食用、毛皮用、愛玩用などの用途で国外から導入したもののだけでなく、意図せず何かに随伴してもち込まれ、その結果野生化した生物を指す。なかには農作物に被害をおよぼしたり、在来の生物たちの生息を脅かしたりするものがあらわれた。そのため、輸入・飼養を禁止する一方で、野生化したものを捕獲して環境中から除外するべき「特定外来種」がリスト化された(二〇一四)。

除外、すなわち捕獲・殺処分にあたっては、動物福祉の観点からできるだけ苦痛を与えないよ

# からくり人形のふるさとを訪ねて —27年ぶりの出会いと再会

荒川 史康 あらかわ ふみやす ニューメキシコ州立大学准教授、同附属博物館長



### 自身のルーツを辿ってみました

藤井昭名誉教授ご夫妻（右下）と長女の藤井ゆかりさん（左）、筆者の妻とともに（名古屋、2018年）

2017年11月から8カ月、祖国・日本へ帰国し、外国人研究員としてみんぱくに着任した筆者。研究のかたわら、休日には自身のルーツを辿るべく、故郷・愛知県を訪れた。祭でめぐりあった曾祖父のからくり人形と、思いがけないみんぱくとの縁について紹介したい。

からくりとは「糸・ぜんまい・水などの動力を利用して、人形や器物を動かす仕掛け。また、その仕掛けを使った見せ物」と辞書にある。わたしとからくり人形の初めての出会いは、飛騨高山獅子会館からくりミュージアム（岐阜県高山市）であった。恵比寿様のからくり人形が縁起の良い文字を筆で書く実演を間近に観た。また、からくり人形の代名詞である茶運び人形は、手に茶碗を載せるとまっすぐ進み、茶碗をとると止まる。再び茶碗を載せると、今度はくりりと二八〇度方向を変え、元の位置まで戻ってくる。まさに神秘的そして茶目つ気のある動きに魅力を感じずにはいられなかった。からくり人形の歴史は古く、奈良時代から制作が始まっていたと文献にあり、祭事も今もなお執りおこなわれている。江戸時代後期までは、紐で操られていたが、日本に時計が輸入されるようになると、時計のぜんまいのしくみを取り入れ、ぜんまい仕掛けのからくり人形が登場したのである。

## 曾祖父との「再会」

さて、わたしとからくり人形、そして愛知県半田市・亀崎の潮干祭について触れたい。幼少のころよりわたしは、父方の祖父から、曾祖父は名古屋で人形を作っていたと聞いていた。長男（祖父は次男である）が跡を継いで人形師を継承するはずであったが、第二次世界大戦で長男が亡くなり、継承の道は閉ざされてしまった。



信善光寺の屯田兵の人形（撮影：荒川渉、北海道北見市、2002年）

曾祖父の作品は、北海道北見市信善光寺に奉納された七五体

その躍動的な動きとこれまで見たことのない光景を目の当たりにしたとき、これが無形文化財というものなのかと、感動と興奮を抑える事ができなかつた。

みんぱくでは、伊藤敦規准教授、そしてアメリカインディアン（ホピ族）と、米国南西部で発掘されたミンブレス土器について共同研究をしていた。ホピ族独自のデザインの、彼ら自身による解釈、表現を記録するプロジェクトである。これまでの伊藤先生とホピ族の人びとの共同研究は、文化人類学、博物館の資料への貢献だけでなく、ホピ族の子孫に記録として残り、映像や文献で伝えたいという未来への強い気持ちからも成っている。また、資料熟読中、子孫である彼らが祖先が造った物を観るだけでなく、実際手にとって触れる事に深い感動を味わっている様子、わたしにも感じられた。伊藤先生は、そのような経験、実感を「再会」と表現している。渡米して二十七年、今回の日本での長期滞在における、このようなかたちでの日本文化とのふれ合い、そして自分の曾祖父の作品との「再会」。ホピ族の人びとが味わう先祖との再会と想いをわたし自身も経験できた。

## 嬉しい出会い

最後に、わたしの曾祖父の作品調査のあり、思わぬ事からみんぱくにご縁のある人と出会う事もできた。わたしの母方の祖母は、名古屋の光蓮寺という寺の出身だった。その祖母の母（わたしの曾祖母）は、名古屋の長円寺から嫁いできた。曾祖母の弟の名は藤井制心、一九七四年から一九九六年までみんぱくで民族音楽学を研究していた藤井知昭名誉教授の父である。何という偶然か、藤井知昭先生とわたしは遠縁ではあるが親戚だったのだ。こうして亀崎の潮干祭から始まったからくり人形と曾祖父の調査、その過程での藤井先生との縁。このみんぱくでの研究の機会が無ければ、これらの出会いはなかったであろう。この体験記事をもって御礼のことに代えさせていただきます。



亀崎潮干祭（愛知県半田市、2018年）



曾祖父制作のからくり人形（2018年）

の屯田兵の人形がもつとも有名であり、また亀崎潮干祭では東組宮本車の上山人形（湯取り神事）が舞い踊り、どちらも現在も目にする事ができる。屯田兵は、北見市指定文化財（民俗文化財）、そして亀崎のからくり人形とその行事は、ユネスコ無形文化遺産、国重要無形民俗文化財および愛知県有形民俗文化財に認定されている。

毎年五月に開催され、三〇〇年以上続いている亀崎潮干祭へ、わたしは同僚のカナダ人と二〇一八年五月四日に訪れる事ができた。降り立った亀崎駅から会場の亀崎海浜緑地までの道のりは、屋台がずらりと並び人で溢れていた。懐かしい日本のお祭り

風景である。大きな山車蔵の前では法被を着た人たちが、各組の仲間と酒を交わし気合いを入れていた。亀崎海浜緑地に着いたとき、丁度、曾祖父のからくり人形が載る宮本車の山車が動き始めた。若い担ぎ手たちが腰まで海水に浸かり、何百年も継承されている唄を歌いながら一斉に潮の引いた波打ち際に向かって一気に巨大な山車を曳き下ろしていた。



みんなく映画会「彷徨える河および映画が拓く新たなバリアフリーの世界」の会場は、ホテル阪急エクスポパーク 多目的ホールオービットホールとなります。国立民族学博物館内ではありませんので、ご注意ください。

特別展

「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

日本における工芸の近代化、産業化の推進と東北地方の工芸業界の発展に寄与した商工省工芸指導所は、まさに日本におけるインダストリアルデザインの原点の一つです。本展では、商工省工芸指導所の活動を振り返りつつ、日本の工芸品が、どのように世界に挑戦するのかについて考えます。

会期 11月27日(火)まで  
会場 特別展示館

■関連イベント

ワークショップ

「オリジナル木製スプーンをつくってみよう」

(京都造形芸術大学との共同プロジェクト)  
工芸指導所が開発した成形合板の基礎知識について簡単なレクチャーをおこないます。また、成形合板でつくった木製スプーンの

型をサンドペーパーで削り出し、参加者オリジナルの模様をいれた木製スプーンを製作します。  
日時 11月3日(土・祝)、11月18日(日)  
各日11時～15時30分(15時受付終了)  
会場 特別展示館2階(各日定員80名)  
対象 子どもから大人まで(未就学児は保護者同伴で参加)  
※当日受付、要特別展示観覧券  
※各日とも13時より日高真吾(本館 准教授)によるギャラリートークをおこないます。

企画展

「アーミッシュ・キルトを訪ねて——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」

無地の服を着て馬車を駆る北米のキリスト教再洗礼派アーミッシュが布の端切れを生かしてつくるキルトは、その鮮やかな色合いや細やかなステッチで人びとを惹きつけています。2011年より収集してきたみんなくコレクションを素材として、キルトに織りこまれた日々の暮らしや物語、キルトが結ぶ世界との交流をたどりま。

会期 12月25日(火)まで  
会場 本館企画展示場

■関連イベント

ギャラリートーク

日時 12月20日(木) 14時～  
講師 鈴木七美(本館 教授)  
会場 本館企画展示場

※申込不要、要展示観覧券

年末年始展示イベント

「いのしし」

2019年の干支である「いのしし」をテーマに、みんなく所蔵の資料や写真を展示し、世界各地の「いのしし」を紹介します。  
会期 12月6日(木)  
～2019年1月22日(火)  
会場 本館ナビひろば

みんなく映画会「第43回ワールドシネマ「彷徨える河」」  
アマゾン上流域の先住民の視点で描いた「秘境」とお話し、彼らの知恵や自然と人間との関係について考えます。  
日時 11月4日(日)  
13時30分～16時30分(13時開場)  
会場 ホテル阪急エクスポパーク  
多目的ホール(オービットホール)  
(定員400名)  
※申込不要、参加無料  
※参加券を当日11時から多目的ホール(オービットホール)前受付にて配布

みんなく映画会

「映画が拓く新たなバリアフリーの世界」

「盲ろう者(視覚と聴覚両方に障害を持つ人達)とその家族・支援者の日常生活を丁寧に描いたドキュメンタリー映画もつろうをいぐる」を「バリアフリー版」で上映・鑑賞することによって、映像文化共有のあり方について考えます。  
日時 11月24日(土)  
13時30分～16時30分(13時開場)  
会場 ホテル阪急エクスポパーク  
多目的ホール(オービットホール)  
(定員400名)  
※申込不要、参加無料  
※手話通訳・文字通訳あり  
※映画上映は「聴覚障害者対応日本語字幕」および「視覚障害者対応音声ガイド」つき  
※参加券を当日11時から多目的ホール(オービットホール)前受付にて配布

カムイノミ(神への祈り)

本館に所蔵されているアイヌの標本資料への感謝と安全を願い、北海道アイヌ協会の協力をえて、カムイノミをおこないます。  
日時 11月8日(木)10時30分～11時50分  
会場 本館玄関前広場(雨天の場合、古式舞踊はエントランスホールにて実施)  
※見学可能、申込不要

阪急生活楽校 講演会

「世界遺産マチュ・ピチュ——神秘のペルーを剥ぐ」

旅行者の絶えない、人気の世界遺産マチュ・ピチュ。遺跡の担った役割や探検家による発見の経緯、地元住民と世界遺産との関係まで、知られざるマチュ・ピチュを徹底的に紹介します。  
日時 11月26日(月)14時～15時30分  
(13時30分開場)  
講師 関雄二(本館 教授)

会場 阪急うめだホール(阪急うめだ本店9階)(定員300名)  
参加費 友の会会員500円  
一般1000円

※要事前申込(先着順)

※阪急生活楽校の受付フォームもしくは千里文化財団へお申し込みください。  
お問い合わせ先  
千里文化財団 06-6877-8893

●みんなく無料シャトルバスのご案内

大阪モノレール「万博記念公園駅」とみんなくの間の直通無料送迎バスを特別展「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」の会期中に運行します。  
運行日 11月27日(火)までの土曜・日曜・祝日  
1日11往復、所要時間10分、無料  
運休日 平日、11月3日(土・祝)、4日(日)、10日(土)、11日(日)

●無料観覧日のお知らせ

11月17日(土)、18日(日)は、本館展示と企画展「いのしし」を併せて開催いたします。ただし、特別展の観覧は有料となりますので、ご注意ください。

※万博記念公園でイベントが開催される場合は臨時に運休することがあります。詳細は本館ホームページをご覧ください。

友の会

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)  
※会員無料(会員証提示)、一般500円

第483回 12月1日(土)13時30分～14時40分  
企画展「いのしし」を併せて開催

「アーミッシュの信仰と文化——歴史から現代へ」  
講師 踊共(武蔵大学教授)

アーミッシュは北米の田園地帯に暮らすキリスト教一派で、素朴なライフスタイルを特徴とします。過剰を好まず、教育や医療も自分たちでおこなうとします。その起源は17世紀末のスイスで、母語はドイツ語です。聖書の教えを厳格に守る彼らは、派手な芸術を好みません。一方、先祖伝来のカリグラフィ(文字装飾)、書籍印刷、木工、手織りのキルトにみられる豊かな色彩と温もりのあるデザインはじつに魅力的です。彼らの来歴とともにその暮らしを紹介します。

※講演会終了後、解説付きで企画展の見学会をおこないます(40分)。見学会にご参加の方は会員証もしくは展示観覧券をご提示ください。「解説 鈴木七美(本館 教授)」

東京講演会

第124回 12月8日(土)13時30分～14時40分  
野次から応援へ——応援の比較文化論の試みから

講師 丹羽典生(本館 准教授)  
会場 モンベル御徒町店4Fサロン  
応援というのは人間における応援行為です。しかし世界各地のスポーツの間における応援を比較してみると、それぞれ別の事情が垣間見えたりします。また日本の応援団という存在は、日本的な文化として注目を浴びることがあります。ところが日本の応援団をあらためて応援する組織の来歴に位置付けて眺めてみると、意外と外来文化の影響を受けたおぼろしい側面が立ち現れてきます。本講演では、応援をめぐって研究をすすめていくなかで見えてきたことについて紹介します。  
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。要事前申込(定員60名)、会員無料、一般500円

第80回体験セミナー

長崎県、潜伏キリシタンの足跡を訪ねる  
生月島・平戸島・上五島を訪ねる

日程 2019年2月22日(金)～25日(月)  
【申込締切：1月11日(金)】

みんなくセミナー

日時 11月17日(土)13時30分～15時(13時開場)

会場 本館セミナー室ほか

参加費 無料

※参加券を当日12時30分から本館1階案内所前にて配布  
※メイン会場が満席の場合は中継会場をご案内いたします。  
第485回

韓国の若者層がみた現代韓国

——生きつらさを個人レベルでどうするか

講師 太田心平(本館 准教授)  
韓国の若者流行語「ヘル・チョヨン」。韓国は地獄(ヘル)のように生きつらく、朝鮮(チョヨン)時代さながらに旧態依然だといえます。何が生きつらく、それを若者層はどうやりくりしているのでしょうか。

みんなくワークショップ・サロン  
研究者と話す

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」調査している地域(国)の最新情報「みんなくの展示資料」について分かりやすくお話しします。

カザフ伝統医療の世界

話者 藤本透子(本館 准教授)

11月4日(日)14時30分～15時 本館ナビひろば

11月11日(日)14時30分～15時 本館ナビひろば

11月25日(日)14時30分～15時

特別展示館1階中央現在に活かす工芸「コーナー市民参加型ワークショップ」現代に活かす伝統の手わざ」から考えるインダストリアルデザイン  
話者 日高真吾(本館 准教授)  
小谷竜介(東北歴史博物館)

※11月18日(日)のワークショップ・サロンはお休みです。  
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)  
ただし、25日(日)は要特別展示観覧券



ソウルからの国際便。移民や長期滞在者も多い

北大阪ミュージアムメッセ

北大阪8市3町の美術館、博物館が2日間みんなく大集結し、さまざまなワークショップや、地域の民俗芸能上演などを実施します。

日時 11月17日(土)、18日(日)

会場 本館エントランスホール及び特別展示館休憩所(地階)

※申込不要、参加無料(当日は無料観覧日です)。  
主催 北大阪ミュージアム・ネットワーク

※各イベントについて詳しくはみんなくホームページをご覧ください。  
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

■信田 敏宏 著

『「ホーホー」の詩、それから——知の育て方』

出版社 1,400円(税別)

『「ホーホー」の詩がでるまで』の続編。本書では、娘の教育実践を例に楽しく学ぶための工夫やアイデアを紹介しながら、知的障がい児が知識や教養を身につけることの意義を論じている。現在の特別支援教育のあり方を問い直し、「みんなくSama-Sama塾」を始めるきっかけとなった書。



刊行物紹介

■出口 正之 著  
『公益認定の判断基準と実務』  
全国公益法人協会 4,630円(税別)

公益性判断に関する初の解説書。政府に入り込んだ著者が、公益認定法・ガイドライン等の趣旨について、当時の内閣府の議事録等を示し、丁寧に解説している。みんなくの研究者ならではの視点があり、公益法人の専門家、行政関係者だけではなく非営利組織研究者、文化人類学者等にもおすすめの一冊。



想像界の生物相

# メキシコ仮面に見るクリーチャーたち (1)

— 旧コードリー・コレクションより

ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館長 アンソニー・シュルトン



資料名 | カイマン (ワニ) 仮面と衣装  
 標本番号 | H0068130 ~ 31  
 地域 | メキシコ  
 サイズ | 仮面の高さ 93cm、衣装の長さ 232cm

資料名 | タランチュラ仮面  
 標本番号 | H0068141  
 地域 | メキシコ  
 サイズ | 高さ 64cm

メキシコの仮面にはさまざまな物語があり、過去と現在が交わる不思議な世界への入り口となる。この世の創造前にいたという怪物がキリストと肩を並べたり、メキシコ軍とフランス軍の戦いにトルコ人が突如あらわれたりする。神話と歴史が攪拌され、融合することのような時間の流れの揺さぶりのことをわたしは「時震」とよんでいる。それは、カーニバル、復活祭、クリスマス、聖者祭、一年の農作業の始まりと終わりを祝う祭などのときに、年に何度か起こる。祭や儀礼の際におこなわれる仮面劇において「時震」を生み出す人びとの想像力は、ときにコレクターの収集欲やアート市場を満たすための仮面を創造することもある。

◆◆◆コードリーとみんなはく◆◆◆

みんなくには世界有数のメキシコ仮面コレクションがあるが、なかでも『メキシコの仮面』(一九八〇年)をしるした収集家ドナルド・コードリーのいくつかの旧蔵品にここで出会えたことは大きな収穫であった。例えば、人間とクモの要素を組み合わせたタランチュラ仮面。このような

合成獣はメキシコには非常に少なく、コードリーの本に掲載されている事例が確認されているのみである。コードリーはこれを、一九〇〇年ごろにゲレロ州のカンボ・モラド、もしくはラ・パロタ地域のバエナ家の仮面作家によって作られたものとしている。しかしその後の研究者の調査によって、この一連の仮面がゲレロ州ティクストラの仮面作り一家のエルネスト・アブライハムによって、一九七〇年代から八〇年代にかけて作られていたことがわかった。エルネストは、実際に儀礼で使われる仮面を彫るだけでなく、メステイーン(混血)の仲買人の依頼を受けて、祭とは関係のない、より空想的な作品も創作したことを打ち明けた。それらが、イグアラ、ケエルナバカ、メキシコシティといった都市部の市場から、仲買人が造りあげた「由緒」とともに海外のコレクターの手に渡ったのである。

◆◆◆アステカ神話の怪物◆◆◆

少し変わったワニを象ったカイマン仮面と腰に付ける衣装も同じくコードリーが集めたもので、二〇世紀初頭にサンタ・ア

ニタに住んでいた謎の仮面作家ホセ・ロドリゲス作とされた。この仮面が使われたとされる魚の踊り(または漁師の踊り)が本当にあったか疑わしいと一時期はいわれたが、メキシコ人研究者ルース・ルチュガがチャパで撮った写真には類似したワニのような生き物を腰に付けた踊り手が写っており、コスタ・チカの沿岸でも同様の踊りが報告されている。

ワニの尾は、蛇革とおぼしき連結部分でつながれたいくつかの木製パーツでできており、踊り手の腰の動きとともにうねうねと動き、近づくと容赦なくぶち当たるようになっていく。ワニはおそらくアステカ神話に登場する大地の怪物シバクトリをあらわしている。

アートとして扱うべきか、民族資料として扱うべきか。いずれにしても、メキシコの仮面作家たちの独創的な想像力と活発な創造力の産物であることには変わりない。彼らは自ら体験したさまざまな苦楽から、想像界と現実界、自然と超自然を混合した驚異の世界を抽出するのである。(翻訳・山中由里子)

# 新世紀ミュージアム

人びとが足早に行き交う大都会・東京に、地元の人びととのつながりを大切に活動を続ける資料館がある。消えゆく文化を残したいという人びとの想いから生まれたミュージアムのひとつのあり方を見る。

## 江戸の暮らしが残る町

台東区立下町風俗資料館は、古き良き下町の文化を後世へ伝えることを目的として、上野・不忍池のほとりに昭和五五年に開館した。現在の台東区は、江戸時代から職人や商人が多く住み暮らしやす下町であった。

東京は江戸から名称を変え首都となった近代以降に幾度も大きな転換期を迎えており、下町のすがたや人びとの暮らしも、そのたびに変容をとげてきた。なかでも大正二年の関東大震災と昭和二〇年の戦災は、庶民の生命と財産に壊滅的な被害を与え、その後の暮らしを大きく変えた。

戦後の転換期は昭和三〇年代の高度成長期である。東京ではオリンピック開催を契機とする急速な都市開発が進み、それまでの運河を船が行き交い路面を電車がゆつくりと走る近代都市から、縦横にうねる首都高速道路を自動車が行き交うことな疾走する現代的なメトロポリスへと大きく衣替えを果たした。また、洗濯機、冷

のスタッフは、毎朝、展示場内の路地へへの打ち水や暦の日めくり、神棚へのお供えを欠かさずにおこなっている。家や町を常に手入れし暮らしやすいよう保つことで、実際の生活感や居心地の良さを味わえるよう配慮しているのである。見えないところにも手がかけられており、たんすのなかには季節に合わせた着物がきちんと収納されている。じかに手でさわって確認してみてもいい。

二階では地域にまつわるさまざまな資料を展示している。玩具のコーナーには遊び道具が展示されており、手にとつて遊ぶことができる場所も用意されている。すころくやけん玉など、当時のなつかしい遊びを家族や地域の年配の方と一緒に楽しむことができる。暮らしの資料コーナー



上：駄菓子屋の屋内。たんすのなかには季節の着物が収納されている  
下：昭和30年代の居間。庶民の暮らしに白黒テレビや黒電話が入ってきた  
(写真提供：台東区立下町風俗資料館)

その横には高度成長期のアパートの一室が再現されている。長屋の時代から続くちゃぶ台を中心とした空間に、最新のテレビや電気炊飯器が鎮座する様は、今のわたしたちの生活スタイルの原型であり、江戸と現代とをつなぐ貴

蔵庫、白黒テレビなどの家電が「三種の神器」としてもはやされ、家事や娯楽のありようが一変したのもこの時期である。このような大きな変化のなかで、上野・浅草の下町の暮らしにおいてもむかしながらの風習や日常の景色が少しずつ失われていった。昭和四〇年代に入り、そのことに危機感をもった区民の声をもとに構想が立てられ、台東区内外から多数の資料



銭湯「金魚湯」。番台にのぼり、記念に写真撮影をする来館者も多い  
(写真提供：台東区立下町風俗資料館)

では、明治から大正期、昭和初期、戦後、高度成長期といったそれぞれの時代での地域の暮らしや年中行事などが、当時の写真や印刷物、日用品などの所蔵資料とともに紹介されている。

なかでも目をひく展示は銭湯「金魚湯」の番台であろう。台東区蔵前で昭和六一年まで営業していた風呂屋の入口まわりを移築した再現展示である。柱や扉のつやや無数の傷は年季を感じさせるが、紺の暖簾と脱衣かご、脇に置かれた体重計がまるで今も営業しているような雰囲気を出している。実際に番台に上がることができるということもあって、資料館でもっとも人気のあるコーナーのひとつである。

の寄贈を受けて設立されたのが下町風俗資料館である。

## 文化の継承は「手」が担う

台東区に暮らしやす人びとの切実な想いを受けて設立された下町風俗資料館であるが、その展示は創意と楽しさにあふれている。大きな特徴は、展示場にむかしの家屋とその内部を再現し、来館者が実際にそのなかでの暮らしを体験できるように工夫していることであろう。

関東大震災以前の町には、江戸時代から続く町並みや商売がそのまま残っていたのである。その様子を今のわたしたちに伝えるため、一階には当時の商家と長屋が丁寧に再現されている。しかも外から展示を眺めるだけではなく、入り口や縁側から家のなかに入り、たんすや食器などの家財道具に直接ふれることもできる。駄菓子屋に上がり、ちゃぶ台でお菓子とお茶をいただく気分を味わうなど、思いの体験ができるよう工夫されている。

なお調度品の多くは当時の人びとが使用していた実物であり、資料館の貴重な所蔵資料である。それを惜しげもなく誰もが手にとることができる「ハンズオン展示」を実施しているところに、下町の暮らしをわかりやすく伝えたいという熱意が感じられる。さらに驚くことに、資料館

重な瞬間でもある。そのためなのかどうか、現代人にとっても不思議と落ち着く空間であるらしく、親子やカップルが次々に室内に上がっては、のんびりとくつろぐ姿が印象的であった。

## 文化継承の拠点としてのミュージアム

下町風俗資料館では、その他に月一回の紙芝居や伝統工芸の実演会、お正月の獅子舞や大黒舞などの季節の実演会なども開催し、また、小学生を対象とした工作教室として「こども土曜塾」などのワークショップも積極的に実施している。台東区の人びとに愛される資料館として地域に密着し、多くの支援者とともに庶民の歴史である下町の記憶を今に伝えている。さらに近年は海外から訪れる方も増えており、下町の文化を国内のみならず広く国外へと紹介する役割も果たしている。

開館から三八年を迎えて、施設や資料の維持管理のうえで課題は多いとのことであるが、地域文化継承の拠点としての先駆けであり、今、各地で求められているミュージアムの好事例であることは間違いない。大切な記憶を次の世代に伝えるその活動は、たんなる懐古趣味とは一線を画する。江戸の下町から世界へと広がる、手ざわり感あふれる情報発信の取り組みに今後も注目である。



寿司屋で振り返る日本文化

鈴木紀  
民博 人類文明誌研究部

世界に広がる日本料理

この映画は寿司職人を目指すメキシコ系移民女性の物語である。メキシコで寿司といえば、わたしには忘れられない思い出がある。一九八〇年代半ば、メキシコのユカタン州でマヤ民族の調査をしていたとき、近くの町に日本料理店ができた。さっそく出かけてみると、カウンターの奥の板前さんはマヤ人だった。覚えてたてのマヤ語で寿司談義をした記憶がある。わたしは寿司を握るマヤ人に驚き、彼はマヤ語を話す日本人を珍しがった。当時わたしは、フィールドワークをしながら、マヤの人びとどうつきあうか手探り状態だったのだが、寿司は早々に文化の垣根を越えている気がした。



メキシコ風寿司定食。刺身と寿司とご飯！

食文化の摩擦

三〇年後の現在、日本料理がますます世界に広がったことはいうまでもない。しかしその過程で、いったいどんな文化摩擦や葛藤が生じたのだろうか。この映画はそれを教えてくれる。舞台はアメリカのサンフランシスコ近郊、メキシコ系のシングル・マザーのフアナは、求人広告を見て日本食レストランで働き始める。料理の得意な彼女は、すぐに調理場で頭角をあらわす。そして板前としてカウンターに立つことを夢見る。しかしそれは簡単には実現しなかった。日本とメキシコの食文化に違いがあるからだ。

問題は三つあった。まずは食材だ。フアナは自分のオリジナルな寿司として、グリーン・ディアプロ・ロール（緑の「悪魔」巻き）を考案した。これは、海苔の代わりにローストしたポブラノ唐辛子を巻くものだ。当然、日本料理としては違和感がある。しかしこれを認めるか否かは、客の好み次第であった。より深刻なのは、次の問題である。女性でメキシコ系の顔をした人物は、板前にふさわしくないとレストランの日本人オーナーはフアナに言い渡す。これは、日本の食文化のなかに潜んでいるジェンダー差別、民族差別が露呈したことを意味する。わたしはこのシーンに居心地

「イーストサイド寿司」

原題：East Side Sushi

2014年／アメリカ／英語・スペイン語／106分／DVD（日本語）なし

監督：アンソニー・ルセロ

出演：ディアナ・エリザベス・トーレス、竹内豊



映画のワンシーン  
(提供：Blue Sun Pictures, LLC)

の悪さを感じた。おそらく多くの日本人も、同様だろう。しかしこの問題も、物語の最後では解決を見る。フアナの情熱が偏見に勝つのだ。そして第三の問題は、もっと象徴的なレベルで生じた。詳細は控えるが、フアナは寿司職人コンテストで優勝を逃す。その理由は、料理のマナー違反を犯したからである。いわば日本文化の中の「穢れ」に触れてしまったのであり、これは取り返しのつかない結果となった。

映画の評判

映画は、さまざまな評判をよんだ。まずメキシコのメディアの反応を見てみよう。メキシコの食文化が忠実に表現されている点が評価され、メキシコ映画でないのに、極めてメキシコ的だと賞賛の声があがっている。また、移民であるフアナが見る夢を、トランプ政権は悪夢に変えようとしているとして、「壁」の向こうの同胞にエールを送る政治的な評論も見られる。一方アメリカでは、ハリウッド映画とは異なり、普通のアメリカ人の暮らしが描かれている点が評価されているようだ。アメリカ国務省が主催する二〇一六〜一七アメリカ映画ショーケースに選ばれ、各国のアメリカ大使館でアメリカの今を紹介する映画として上映されている。アメリカの日系人のメディアも、概ね好意的だ。「心温まる」映画として推薦している。日系とメキシコ系は、ともにアメリカの少数民族集団なので、



East Side SushiのDVD  
(提供：Blue Sun Pictures, LLC)

その相互理解を促す映画として注目されているのだろう。

日本人はどう見るか？

この映画は日本では一般公開されていない。しかし多くの日本人に見てもらいたいと思う。それは「心温まる」映画だからではない。むしろ「居心地が悪い」映画だからだ。問われているのは日本の食文化の閉鎖性である。それは日本人にとって自宅の庭を踏み荒らされるような感覚といえるかもしれない。そして、この映画が撮影されたアメリカ西海岸の多文化社会の文脈では、答えは明らかだ。偏狭な民族文化に未来はない。はたして今の日本で、この結論を素直に受け止められる人はどれ位いるだろうか。しかしグローバル化が進み、異文化間の交流が加速する現在、日本人は、どの道、この「居心地の悪さ」を克服していくしかないだろう。目の前で外国人の女性が握る寿司が当たり前になる日はいつくるだろうか。

ビジュアルが勝負？ ペルーの政党名



What's in a name?

やぎ ゆりこ 八木 百合子 民博 人類基礎理論研究部

ペルーには、二〇〇を超える政党が存在する。日本の四分の一ほどの人口の国で、これはいったいどういふことだろうか。現地の大使館で政治分析を担当していたころ、その数に頭を悩まされた。

じつはこのうち、いわゆる全国政党として、その名をとどろかせている政党は一割程度にすぎない。大半は地方政党とよばれ、四年に一度、全国の市町村の首長を選出する、統一地方選挙の年に出現する政治組織である。毎回、選挙の半年前になると、一斉に政党登録が始まる。候補者たちは、同盟者を集めると同時に、党の名付けに試行錯誤するのである。

政党名には一般に、党の政策や理念に沿ったかたちの名前が付けられることが多い。大統領選挙にも出馬する全国政党はその典型で、「進歩のための同盟」、「ペルー国民主義党」、「人民行動党」、「新左派運動」などがある。一方、地方政党になると、経験が浅く、イデオロギー的基盤がほとんどないような「政党」もめずらしくない。そのせいか、一見、政治とはかけ離れたような名前も多く、政党名と認識するのが難解だがユニークかつ巧妙である。

例えば、ペルー南部のクスコ県に基盤を置く政党に「インカ・パチャクテック」というのがある。いにしへのインカ皇帝の名を拝したものだ。歴代皇帝のなかでも功績が目覚ましく、「世界の変革者」とされていたのがパチャクテックである。政治変革のイメージを打ち出す格好の名称といえる。

さらに、同じく南部の山岳地帯のプノ県では、通称「つ

るはし(PICO)」や「ゴール(GOOL)」という政党がある。どちらも、あまりに長い名前(スペイン語)の頭文字をとった略称である。正式名称を即答できるような人は地元でも稀だ。長く複雑な党名を覚えるのに通称は最適である。

また、南部地域でしばしば見かけるのが、先住民言語になぞらえた通称である。よく知られる「アイニ(AYNI)」は、山岳地帯の農民のあいだで古くから実践されている相互扶助を指す語である。

ただ、こうした通称や名前のインパクトも大事だが、最終的にはそれを視覚イメージと結びつけることが鍵となる。その理由は、投票用紙を見れば一目瞭然である。ペルーの地方選挙では、投票用紙に政党名とシンボルマークのみが刻まれている。投票の際には、票を入れるたい政党のシンボルマークの上に×のしるしを書き込む。つまり、有権者が最後に思い浮かべるのはシンボルマークなのである。特に南部の山岳地帯の場合、有権者のなかに、先住民言語話者や非識字者も少なくない。だからこそ、名付けにおいては、見た目や記憶に配慮することが、勝利の秘訣なのである。



ペルー南部の地方政党のシンボルマーク。右側上段がインカ・パチャクテック。【出典：ペルー全国選挙管理委員会(JNE)ホームページ】

## 編集後記

本号では、動物福祉と動物倫理をとり上げた。小生は、紛争や暴力の問題にオセアニアの事例からアプローチしている。そのため人類史における人間や動物の権利の浸透と拡散に興味があった。共同研究「捕鯨と環境倫理」を進めている岸上伸啓教授に本号の特集をお願いしたのは、現在重要な議論を巻き起こしているからだけではなく、そうした個人的な関心もあった。

企画の打ち合わせの席で、岸上教授が繰り返し述べておられたように、動物倫理という問題に対しては、人びとの意見は極端に分かれている。そのことは、短いながらもこの特集の一連の記事からも読みとれるかと思う。動物の処遇をめぐって今何が問題となっているのか、動物倫理という考え方は未来の人間観を変化させる触媒となるのか。関心のある読者の方々に、この特集が一助となればと思う。(丹羽典生)

●表紙：ハズバンダリートレーニングによって、オットセイに点眼している様子  
(撮影：佐藤哲也、2012年)

## 次号の予告

特集

## 「1968と人類学」(仮)

## みんぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

### 維持会員・正会員

『月刊みんぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

### ミュージアム会員

『月刊みんぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



## 月刊みんぱく 2018年11月号

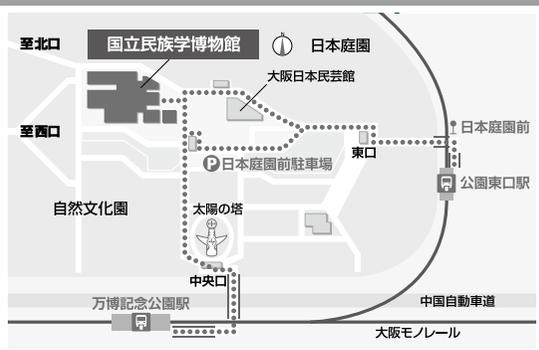
第42巻第11号通巻第494号 2018年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子  
編集委員 丹羽典生(編集長) 寺村裕史 三島禎子  
南真木人 山中由里子 吉岡乾

デザイン 宮谷一欒 長岡綾子  
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団  
印刷 毎日新聞社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に  
お願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

みんぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんぱくYouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>



# みんなのほくぶつかん みんなぼく

MINPAKU

## 特別展

## 「**工芸継承**」—東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在

宮城県仙台市に設立され、剣持勇、豊口克平など日本を代表するデザイナーを輩出した、日本初のデザイン研究機関である商工省工芸指導所。特別展では、本指導所で試みられ、日本のインダストリアルデザインの出発点となった工芸品に注目し、木工や漆、組みものなどのすぐれた技術を次世代にどのように継承するのかを考えます。

展示場には、さまざまな素材・技術がもちいられた工芸品・関連資料が約560点展示されています。用の美に触れる特別展へ、ぜひお越しください。本誌9月号で本特別展について特集しています。あわせてご覧ください。



工芸指導所の作品を紹介する「日本らしいデザインの探求」コーナー



日本の有名デザイナーが手がけた椅子を体験できるコーナー

### 特別展

### 「**工芸継承**」 —東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在—

会期：11月27日（火）まで

場所：国立民族学博物館 特別展示館

※2019年1月11日（金）～2月28日（木）には、

金沢美術工芸大学でも一部巡回展を開催いたします。

### 特別展関連商品のご案内

図録

#### 特別展『**工芸継承**』 —東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在—

編者：日高真吾・小谷竜介 発行：国立民族学博物館  
全204ページ、B5判、価格1,836円（税込）

\*商品の詳細は、ミュージアム・ショップまでお問い合わせください。  
email: contact@senri-f.or.jp 水曜日定休



#### クリアファイル

A4 サイズ

全2種類

価格324円（税込）



### 国立民族学博物館友の会

## ミュージアム会員で世界へダイブ！

—みんなぼくをもっと楽しもう！

ミュージアム会員の方へは、本誌『月刊みんなぼく』定期購読に加え、本館展示の無料観覧や友の会講演会への参加など、さまざまなサービスで世界の国々の最新情報をお届けします。



国立民族学博物館友の会には、ミュージアム会員の他にも、各種会員種別がございます。詳細は千里文化財団までお問い合わせください。

電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00



### ミュージアム会員になると お得なことがたくさん

- ・『月刊みんなぼく』『友の会ニュース』の送付
- ・本館展示の無料入館
- ・特別展観覧料の割引
- ・展示観覧券が必要な催しへの参加
- ・友の会講演会（東京講演会）への参加
- ・みんなぼくミュージアム・ショップでの割引
- ・みんなぼくレストランでの割引
- ・万博記念公園周辺施設、提携館の割引

おひとり5,000円（年会費）